

第8回 下野市行政改革推進委員会会議録

日 時	平成23年2月1日(火) 午後3時～4時30分
場 所	下野市保健福祉センターゆうゆう館会議室
出席委員	杉原弘修会長、飯島陽子委員、金子伸禄委員、須藤純子委員、高山忠則委員、田辺伸一委員、渡辺欣宥委員、関口博之委員、前原保彦委員
欠席委員	なし
出席者	広瀬市長、古口教育長、川端総合政策室長、川俣総務部長、大門市民生活部長、田中健康福祉部長、伊沢経済建設部長、鶴見上下水道部長、篠崎教育次長
事務局	落合総合政策副室長、小口主幹兼室長補佐、金田主幹、古口副主幹、古口主査
傍聴者	なし

○次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1)会議録署名人の指名
 - (2)第7回行政改革推進委員会会議録の確認
 - (3)行政評価市民評価報告書(案)について
- 4 行政評価市民評価報告書の提出
- 5 市長との意見交換
- 6 その他
- 7 閉会

○会長あいさつ

(杉原会長) 今日は次第にもありますように、報告書を市長さんに提出することになっています。本日もよろしくお願ひいたします。

○議事

(1) 会議録署名委員の指名

(杉原会長) 今回の会議録署名委員は、田辺委員と渡辺委員にお願いします。

(2) 第7回行政改革推進委員会会議録の確認

(杉原会長) 修正点があればご指摘ください。無いようですので、これで確定させていただきたいと思います。

(3) 行政評価市民評価報告書（案）について

(杉原会長) 行政評価市民評価報告書（案）について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料にもとづき説明。

- ・ 報告書の項目は、昨年度と同じような形を基本としますが、本年度は最後に「6 来年度以降の運用改善に向けた意見」を追加しています。
- ・ 「2 市民評価の目的と評価の役割分担」は、報告書をご覧になる市民の皆さんに、行政評価の内部評価とこの委員会での評価の役割の違いがわかったほうがよいという趣旨で記載しています。
- ・ 「3 評価の対象」は、市で選定した評価対象事業と、その内部評価を一覧表にしました。
- ・ 「4 評価の視点」は、市の内部評価に対して妥当であるかどうかを評価したこと、また、内部評価に際しては「必要性」「熟度・緊急性」「効率性」の観点からも、一つずつ妥当性を評価したことを記載しています。
- ・ 「5 評価結果」については、「I 妥当である」から「IV 妥当とは思われない」の構成比等を示しています。
- ・ 10 ページからは、事務事業別の評価結果について記載しています。「事務事業名」「事業内容」に続いて「評価結果」を記載しています。次に、評価結果にいたる「評価内容」を記載し、その下段には委員会としての評価結果と同様の委員の個別意見を「その他の個別意見」として記載し、委員会の意見とは反対の委員の意見を「反対意見」として記載しています。
- ・ なお、今年度から「6 来年度以降の行政評価の運用改善に向けた意見」を追加しました。来年度以降に向けた意見を記載しています。

(杉原会長) ページ数の多い報告書になっていますが、まず、本日の予定を教えてください。

(事務局) 軽微な修正であればこの場で修正します。変更部分が多い場合には、後日、修正内容を会長にご確認いただき、提出した報告書を差し替えるという形でご了承いただければと思います。

(委員) <了承>

(金子委員) 来年度以降の改善についてですが、内部評価の妥当性を評価するのは分かりにくいです。内部評価と同様に事業を直接評価したいと思いました。

(川端総合政策室長) 事務事業を直接評価するという形は、いわゆる事業仕分けに近いのだろうと思います。総合計画の前期基本計画の期間中は、一定の条件を満たす全事業について、4 年間に割り振って市民の評価を受けたいと考えています。そのため、来年度までは今の形で進めさせていただき、その後については広く検討していきたいと思っています。

- (渡辺委員) 評価シートのなかで、事業の推進方針が3つに分かれています。「事業内容を見直しながら実施する事業」とありますが、具体的にどこをどう見直すのか書かれていません。具体的に見直しの方針を示していただきたいと思います。そうしていただければ、これから見直されることを期待して評価すればよいのか、見直す内容も踏まえて評価するべきかを判断できます。
- (川端総合政策室長) 今のご意見については、来年度以降、資料作成をより具体的にしていって、なるべくそのような形で出来るようにしていきたいと思います。
- (前原委員) この委員会が発足以降、市職員による提案制度の状況をお伺いしていますが、直近では何件ありましたか。
- (事務局) 今年は16件の提案がありました。職員提案制度は、今年から制度を変更しました。1つ目の変更点は、提案内容の間口を広げたことです。具体的には、昨年までは提案によりどれくらい予算の削減効果が見込まれるかを具体的な数字で挙げないと受け付けませんでしたが、今年からは、予算削減に至らなくても考え方の転換など自由な発想で提案してよいことにしました。2つ目の変更点は、自分が担当する業務に関する提案でも受け付けるとしたところです。ただし、その場合は、ある程度具体性を持った提案とすることとしました。
- (前原委員) しかし、16件は少ないと思います。ある民間企業では一人で、15～16件の提案をするようです。どんな些細なことでもいいから、日頃から改善点を見つける意識を職員は持つべきだと思います。
- (川端総合政策室長) 改善意識を持っている職員は結構いると思っています。当市では、市長と職員との意見交換会を実施していますが、その場では多くのいろいろな意見が出てきています。しかし、提案制度では件数が増えていかない状況です。
- (関口委員) 私も若い頃、会社で提案制度を実施した経験があります。最初は少なかったのですが、提案が出てきたら即決して、採用・不採用をすぐ決めるようにしたら件数が増えました。直属の上司が採用・不採用を即決すればよいと思います。事務局から説明のあった職員提案制度には、審査方法などに問題があるのではないのでしょうか。
- (前原委員) 以前の行政評価で地籍調査事業が対象となりましたが、少人数の調査だと困難だという説明でした。市内には行政書士が10数人は居ると思いますので、調査は地元業者でやればよいと思っています。地元の企業を育てる意識で、地元の業者を使っていくべきではないのでしょうか。
- (川端総合政策室長) 行政としては、いかに早く安く良くやるかということが求められます。地元の業者だけに限って入札すると、予定価格で落札されな

かったことがあります。そのため、市外へも対象業者を広げて行うわけですが、地元業者の育成も考えていかなければと思っています。行政として公平性は求められますが、経済性も意識しながら取り組んでいきたいと思っています。

(杉原会長) 市の提案制度では、どのようにして提案を集め、採用を決定しているのでしょうか。提案制度で出てきた提案に対して、審査で決まった採用・不採用を提案者に通知するのですか。

(事務局) 応募のあった提案については、まず、庁内 LAN を利用して広く職員から意見を求めます。また、提案内容に関係した所管課に意見を求め、さらに審査委員に個別に意見を求めます。そして、その3つ（職員の意見、所管課の意見、部長の意見）を一つのシートにまとめ、審査会に諮ります。その結果、採用になった場合は庁内に周知し不採用になった場合は本人に連絡します。

(杉原会長) そのような方法では敷居が高いと思います。職員は気が引けて、あまり提案は出てこないと思います。もっと気楽に提案できるやり方にならないと、提案件数は増えないでしょう。提案制度と一言でいっても、いろんな制度があります。どういう提案制度にすべきか提案してもらったらよいのではないのでしょうか。

(渡辺委員) 職員提案に関する事務局の説明の2つ目の改正点ですが、なぜこれまで自分が担当する業務の提案を受け付けてこなかったのか疑問です。発想が良くても効果を具体的な数字で挙げるようにと言われると、難しく提案は出てこないでしょう。また、組織の上の方に位置する人が評価し、厳密な説明を提案者に求めるやり方だと、気軽さが無くなり提案数は減ると思います。

(金子委員) 意識改革は行政改革の一つです。評価する側、つまり、組織の上の方に位置する人こそ意識を変えないと、組織の下の方の人が意識を変えて提案しようとしても、変わっていかないでしょう。気楽に提案できること、また提案を色々なところでやっていると PR することが必要ではないのでしょうか。

(前原委員) まずはささいなところからでも提案を求めてやっていかないと、行政改革は進まないと思います。

(杉原会長) 提案制度について色々ご意見がでましたが、報告書（案）について何かご意見はありますか。

(関口委員) 「その他の個別意見」の欄には良い意見が書いてあると思います。これらの意見を今後どのように反映していくかなど、何か指針はあるのでしょうか。

(事務局) いただいたご意見については、部長や関係課に伝えています。そして、良いご意見については、市の事業にも反映していく予定です。例えば、

私ども総合政策室が所管する広報発行事業では、「その他の個別意見」に記載されている意見を踏まえて、22年度は補正予算で減額、23年度当初予算でも減額しました。このように他の部署にも、よく参考にするように申し伝えております。

- (関口委員) そのように我々の声が市の事業へ反映されることは大変うれしく思います。出来ればこの報告書の意見が採用されて事務事業が変更されたら、こういった場でご報告いただければ委員もやる気が出ます。
- (杉原会長) 他にご意見はありますか。無いようであれば、この報告書(案)を委員会の報告書としたいと思いますが、よろしいでしょうか。
- (委員) <異議なし>

4) 行政評価市民評価報告書の提出

杉原会長から広瀬市長に報告書が提出されました。

5) 市長との意見交換

- (杉原会長) 本日は、市長さん、部長さんがお集まりです。せっかくの機会ですので、これまで十分意見を出していただきましたが、改めてご意見があればお願いします。
- (前原委員) 職員提案制度については、2年位前から行革大綱実施計画の実施項目として進捗状況等を伺ってきましたが、職員だけではなく市民にも求めてはどうでしょうか。
- (川端総合政策室長) 市民の方々にも、ご意見をいただける窓口を設けています。また、各庁舎に設けた提案箱に頂いたご意見やメールは、市長にも報告し、当市の施策へ反映できるものは反映するよう取り組んでいます。
- (関口委員) 私はそのような提案制度があるとは正直知らなかったです。
- (広瀬市長) 当市の広報やPRが不十分だと感じている部分もあります。ただ、市から市民への一方通行の情報発信で良いかというところではなく、意見のキャッチボールができる体制づくりを考えたいと思っています。皆さんからもPRしていただければありがたいです。
- (関口委員) すばらしい意見があって採用されたら、ホームページや広報でPRして欲しいと思います。
- (広瀬市長) 意見交換として、従来からタウンミーティングを行ってきました。しかし、どうしても硬直化してきていたので、少人数によるランチトークも始めました。5人から10人くらいの少人数で、しかもご飯を食べながらという形ですと、タウンミーティングよりも意見のキャッチボールがスムーズにできていると感じています。
- (関口委員) 私はタウンミーティング、ランチトークの両方に出席したことがあり

ますが、確かにタウンミーティングは道路の修繕に関する意見など個別のものが多く、市の全体的な意見は少ないようです。本音で話せるような場でないと、良い意見はでないと思います。

(広瀬市長) ランチトークでは事前に意見書を読んで行う場合もありますが、そうではなく、ざっくばらんにお話しする場合もあります。ざっくばらんな方が、色々なご意見をいただけていると感じます。

(杉原会長) 私の大学でも「ランチョンセミナー」というのをやっています。昼休みの45分間に行うのですが、冒頭に約20分で担当の先生が自分の研究内容を説明します。参加者は任意ですが食事をまじえながらということもあって、色々な意見が出て活発な場となっています。参加者は学生が主ですが、市長のされているランチトークは、どのような方々が参加されるのですか。

(広瀬市長) 各種団体の皆さんです。始めは自己の団体の活動内容に対する市の見解を聞かれるケースが多かったのですが、食事をまじえながら馴染んでくると、そのようなケースだけでなく、色々なご意見をいただけます。私自身、委員会形式の場だと、やはり硬い雰囲気になって色々な意見が出難いのかなと感じていますが、今日の委員会ではどのようなご意見が出ましたか。

(渡辺委員) 職員の提案制度の話があがりました。今年は16件の提案ということでしたが、これは少ないということで議論をしていました。そこで、例えば、月に1件、職員に提案を義務付けてはいかがでしょうか。意見を出そうと考えることが問題意識を持つきっかけになると思います。また、民間企業では良い提案に対して賞金を出すこともあるそうです。良い提案は市の広報紙で知らせれば、PRにもつながるのではないのでしょうか。

(杉原会長) 大学の講義でも、最近は質問に対してインセンティブを与えると、質問が増えて活発になりました。

(広瀬市長) 私も提案は少ないと思っています。提案するということは、自分の仕事に真剣にならないと出てこないということはあると思います。ただ、公務員に対して報償を与えることは難しい面があります。職員には問題意識を持って日々の仕事に取り組んでもらいたいと思っています。また、私は各課に対して、市民への出前講座を行うように言っています。このような出前講座もPRの一つにつながればと考えています。

(金子委員) 私は以前、第三セクターへ出向したことがあります。当時、公務員の前例主義を体験しましたが、今後の行政は前例主義ではダメだと思います。まずはこの意識を変える必要があると思います。

(広瀬市長) 私は民間企業を経験して現職に就きましたが、公務員は減点方式なので、ミスをなるべくしないようにという消極的な意識にどうしてもな

ってしまいがちです。人事評価は加点方式が大事だと感じていますが、民間企業と役所とは業務の性質が違うということも意識をしないといけません。そのような中で、市民の皆さんへどのようなサービスを提供できるかとともに、市民の皆さんと、どのように一緒になって取り組めるか常に考えているところです。

- (前原委員) 話は変わりますが、市長は副市長を置かれるご予定はないのですか。
- (広瀬市長) 副市長については、次の議会に諮りたいと思っています。今回は1人でするので、すべての分野に通じている人材を置く必要があります。
- (渡辺委員) 市民の側にも悪いところがあるように思います。うちの会合には市長は来てくれないのかとってしまうところがあります。ただでさえ、市長は大変なので、副市長を置かれて、さらに市政に取り組んでいただけることを期待しています。
- (広瀬市長) 市民の方々に、呼んでいただけるのはありがたいと思っています。ただ、体は一つしかありませんので、そのあたりも勘案しながら皆さんに貢献できるよう更に頑張りたいと思います。
- (渡辺委員) 我々は委員会で色々議論してきました。そして、色々な意見がでました。その他の個別意見だけでなく、反対意見も一つの意見として市政に届けばいいなと思っています。

○その他

- (事務局) 本日で平成 22 年度に予定された委員会はすべて終了しました。次回
の開催は、平成 23 年 7 月から 8 月頃、行政改革大綱の進捗状況について審議をお願いしたいと思います。また、本日の会議録については、後日、個別に確認していただき、最後に署名委員と会長の確認をいただいで確定したいと思います。

以上